

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	教会音楽実習I						
担当教員	梅村 憲子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の画曲を美しく歌えるようにする 歌うための体と息の使い方に注目し、授業で学んだことによって「体が変わった」という実感が持てるように 初歩的な声楽アンサンブルを楽しむ						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声～4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	身体の使い方と息の流れを感じて歌えること 歌詞の意味を理解し、表現できること 他の人の声、全体の響きを聞きながら声を合わせてアンサンブルできること						
授業計画	<p>前期 第1回 ・受難のコラール その1 ・日本語の合唱曲（2声） その1 ・発声の基礎 立ち方①</p> <p>第2回 ・受難のコラール その2 ・日本語の合唱曲（2声） その2 ・発声の基礎 立ち方②</p> <p>第3回 ・受難のコラール その3 ・日本語の合唱曲（2声） その3 ・発声の基礎 腹式呼吸①</p> <p>第4回 ・受難のコラール その4 ・日本語の合唱曲（2声） その4 ・発声の基礎 腹式呼吸②</p> <p>第5回 ・受難のコラール その5 ・日本語の合唱曲（2声） その5 ・発声の基礎 腹式呼吸③</p> <p>第6回 ・復活のコラール その1 ・ラテン語の合唱曲（3声） その1 ・発声の基礎 重心①</p> <p>第7回 ・復活のコラール その2 ・ラテン語の合唱曲（3声） その2 ・発声の基礎 重心②</p> <p>第8回 ・復活のコラール その3 ・ラテン語の合唱曲（3声） その3 ・発声の基礎 腹筋と背筋①</p> <p>第9回 ・復活のコラール その4 ・ラテン語の合唱曲（3声） その4 ・発声の基礎 腹筋と背筋②</p> <p>第10回 ・復活のコラール その5 ・ラテン語の合唱曲（3声） その5 ・発声の基礎 腹筋と背筋③</p> <p>第11回 ・コラール(Allein Gott) その1 ・ラテン語の合唱曲（3～4声） その1</p>						

## 授業計画

- ・発声の基礎 背中面①
- 第12回
  - ・コラール(Allein Gott) その2
  - ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その2
  - ・発声の基礎 背中面②
- 第13回
  - ・コラール(Allein Gott) その3
  - ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その3
  - ・発声の基礎 体を開く①
- 第14回
  - ・コラール(Allein Gott) その4
  - ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その4
  - ・発声の基礎 体を開く②
- 第15回
  - ・コラール(Allein Gott) その5
  - ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その5
  - ・発声の基礎 体を開く③
- 後期
- 第1回
  - ・待降節のコラール その1
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その1
  - ・発声の発展 筋肉の連携①
- 第2回
  - ・待降節のコラール その2
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その2
  - ・発声の発展 筋肉の連携②
- 第3回
  - ・待降節のコラール その3
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その3
  - ・発声の発展 筋肉の連携③
- 第4回
  - ・待降節のコラール その4
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その4
  - ・発声の発展 横隔膜①
- 第5回
  - ・待降節のコラール その5
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その5
  - ・発声の発展 横隔膜②
- 第6回
  - ・降臨節のコラール その1
  - ・降臨節の合唱曲 その1
  - ・発声の発展 横隔膜③
- 第7回
  - ・降臨節のコラール その2
  - ・降臨節の合唱曲 その2
  - ・発声の発展 顔面の響き①
- 第8回
  - ・降臨節のコラール その3
  - ・降臨節の合唱曲 その3
  - ・発声の発展 顔面の響き②
- 第9回
  - ・降臨節のコラール その4
  - ・待降節の合唱曲 その4
  - ・発声の発展 顔面の響き③
- 第10回
  - ・降臨節のコラール その5
  - ・降臨節の合唱曲 その5
  - ・発声の発展 体を響かせる①
- 第11回
  - ・コラール(Vater unser im Himmelreich)
  - ・ドイツ語の合唱曲 その1
  - ・発声の発展 体を響かせる②
- 第12回
  - ・コラール(Vater unser im Himmelreich)
  - ・ドイツ語の合唱曲 その2
  - ・発声の発展 体を響かせる③
- 第13回
  - ・コラール(Vater unser im Himmelreich)

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語の合唱曲 その3</li> <li>・発声の発展 声を離す①</li> </ul> <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その4</li> <li>・発声の発展 声を離す②</li> </ul> <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その5</li> <li>・発声の発展 声を離す③</li> </ul>
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習 与えられた楽曲の反復練習 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること</p>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。</li> <li>・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます</li> <li>・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます</li> </ul>
評価基準と評価方法	<p>授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし</p>
教科書	<p>その都度楽譜を配布する</p>
参考書	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	教会音楽実習IA						
担当教員	梅村 憲子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の楽曲を美しく歌えるようにする 歌うための体と息の使い方に注目し、授業で学んだことによって「体が変わった」という実感が持てるように 初歩的な声楽アンサンブルを楽しむ						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声～4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	身体の使い方と息の流れを感じて歌えること 歌詞の意味を理解し、表現できること 他の人の声、全体の響きを聞きながら声を合わせてアンサンブルできること						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その1</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その1</li> <li>・発声の基礎 立ち方①</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その2</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その2</li> <li>・発声の基礎 立ち方②</li> </ul> <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その3</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その3</li> <li>・発声の基礎 腹式呼吸①</li> </ul> <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その4</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その4</li> <li>・発声の基礎 腹式呼吸②</li> </ul> <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その5</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その5</li> <li>・発声の基礎 腹式呼吸③</li> </ul> <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その1</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その1</li> <li>・発声の基礎 重心①</li> </ul> <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その2</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その2</li> <li>・発声の基礎 重心②</li> </ul> <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その3</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その3</li> <li>・発声の基礎 腹筋と背筋①</li> </ul> <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その4</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その4</li> <li>・発声の基礎 腹筋と背筋②</li> </ul> <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その5</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その5</li> <li>・発声の基礎 腹筋と背筋③</li> </ul> <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コラール(Allein Gott) その1</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3～4声） その1</li> <li>・発声の基礎 背中面①</li> </ul>						

授業計画	<p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Allein Gott) その2</li> <li>・ラテン語の合唱曲(3~4声) その2</li> <li>・発声の基礎 背中面②</li> </ul> <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Allein Gott) その3</li> <li>・ラテン語の合唱曲(3~4声) その3</li> <li>・発声の基礎 体を開く①</li> </ul> <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Allein Gott) その4</li> <li>・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その4</li> <li>・発声の基礎 体を開く②</li> </ul> <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Allein Gott) その5</li> <li>・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その5</li> <li>・発声の基礎 体を開く③</li> </ul>
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習 与えられた楽曲の反復練習 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること</p>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。</li> <li>・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます</li> <li>・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます</li> </ul>
評価基準と評価方法	<p>授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし</p>
教科書	<p>その都度楽譜を配布する</p>
参考書	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	教会音楽実習IB						
担当教員	梅村 憲子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、さまざまな宗教的内容の楽曲を美しく表現力裕に歌えるように練習を重ねます。また歌うための身体と息の使い方に注目し、1年間の学習で「体が変わった」という実感が持てることも目指します。						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声～4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの声を聞きつつ、楽しんで声楽アンサンブルの演奏ができること</li> <li>・ドイツ語、ラテン語などの正しい発音での歌唱</li> <li>・良い声は身体とつながっていることの実感を持つこと</li> <li>・歌詞の意味を的確に表現し演奏すること</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その1</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その1</li> <li>・発声の発展 筋肉の連携①</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その2</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その2</li> <li>・発声の発展 筋肉の連携②</li> </ul> <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その3</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その3</li> <li>・発声の発展 筋肉の連携③</li> </ul> <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その4</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その4</li> <li>・発声の発展 横隔膜①</li> </ul> <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その5</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その5</li> <li>・発声の発展 横隔膜②</li> </ul> <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その1</li> <li>・降臨節の合唱曲 その1</li> <li>・発声の発展 横隔膜③</li> </ul> <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その2</li> <li>・降臨節の合唱曲 その2</li> <li>・発声の発展 顔面の響き①</li> </ul> <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その3</li> <li>・降臨節の合唱曲 その3</li> <li>・発声の発展 顔面の響き②</li> </ul> <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その4</li> <li>・待降節の合唱曲 その4</li> <li>・発声の発展 顔面の響き③</li> </ul> <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その5</li> <li>・降臨節の合唱曲 その5</li> <li>・発声の発展 体を響かせる①</li> </ul> <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コラール (Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その1</li> <li>・発声の発展 体を響かせる②</li> </ul>						

授業計画	<p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル (Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その2</li> <li>・発声の発展 体を響かせる③</li> </ul> <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル (Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その3</li> <li>・発声の発展 声を離す①</li> </ul> <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル (Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その4</li> <li>・発声の発展 声を離す②</li> </ul> <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル (Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その5</li> <li>・発声の発展 声を離す③</li> </ul>
授業外における学習 (準備学習の内容)	外国語の曲の場合は、正しい発音、言葉の意味を反芻すること 与えられた楽曲の反復練習
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。</li> <li>・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます</li> <li>・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます</li> </ul>
評価基準と評価方法	授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし
教科書	その都度楽譜を配布する
参考書	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	市川 哲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教、特に聖書の信仰について理解を深め、また文化としてのキリスト教、という側面にも触れる機会を持つ。						
授業の概要	<p>この「キリスト教学I」は、必修科目として開設されています。キリスト教の精神に基いて建てられた松蔭女子学院の使命として、学生がキリスト教思想に触れ、その精神を理解することが願われているからです。この講義の中で扱う内容として、以下の3点が挙げられます。</p> <p>① キリスト教信仰の目的とは何か。聖書に込められている精神とはなにか。これらについて、特に文化的な視点で捉える。</p> <p>② 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。</p> <p>③ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。</p> <p>この講義は、キリスト教の伝道（布教）を目的とするものではありません。しかし、ある特定の思想を学ぶ際に、それ自体についての基礎的な知識をもつことは大切です。試験ではその点についても、評価の対象とします。</p>						
到達目標	キリスト教という、近代社会の形成の上で重要な役割を果たした一つの価値観、そして欧米の文化の重要な要素としての宗教を理解することは、こくさいせいをみにつけるうえでも、また今自分の属する現代社会の把握や関わり方を見つめなおすことでも、大きな意味があります。そのための助けとなることができると思います。						
授業計画	<p>15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性があります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行ないます。</p> <p>第1回 キリスト教とは（ガイダンス）、聖書とはどのような書物か I  第2回 聖書とはどのような書物か II、イエス・キリストの生涯  第3回 イエスの福音 I 悪霊  第4回 イエスの福音 II 病気直し  第5回 イエスの福音 III たとえ話  第6回 イエスの福音 IV 「いと小さきもの」への視座  第7回 イエスの福音 V 律法との対決  第8回 イエスの受難、復活  第9回 イエスの昇天から初代教会、教会の分裂と一致  第10回 旧約聖書の時代史 I バビロン捕囚を基点として  第11回 旧約聖書の時代史 II イスラエル共同体の成立  第12回 キリスト教と音楽  第13回 神戸のキリスト教と阪神・淡路大震災  第14回 旧約聖書の時代史 III 捕囚以降  第15回 破壊的カルトについて</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし小レポートを課すことあり。						
授業方法	講義に加え、授業時間中に小レポートを記述、提出することもあります。						
評価基準と評価方法	<p>期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。なお平均点を75点程度にする必要があります（教務からの指示）。そのため受講者の不利益にならない程度で点数調整する場合があります。</p> <p>出席については、講義期間全体のうち半数の出席が必要とします（補講・試験を除く）。ただし、出席日数を点数に換算することはありません。</p> <p>点数内訳 ① 小レポート（5点×5 + <math>\alpha</math>）  期間内に5回以上、適宜講義時間中に感想等を述べたり、課題に回答するレポートを課します。</p> <p>② 論文 または 定期試験（75点）  論文：期間内に1回、論文の課題を出します。テーマ・期限等は5月上旬ごろに示します。  定期試験：期末に試験をおこないます。問題の一部は、講義時間中に発表します。  論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。期限は論文の方が早くなる予定です。状況を見て自分で判断してください。</p> <p>③ 教会出席レポート（15点）  これまで教会の礼拝に出席の経験がある人に限定とします。あらかじめ出席教会の登録が必要です。詳しくは別紙参照。</p>						

評価基準と 評価方法	<p>④ 文献紹介（15点） 論文と別に、課題としてあげた書籍からひとつを選び、内容および感想を記していただきます。書名・期限等は、論文と同じ時に示します。</p> <p>各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。</p>
教科書	<p>『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人は、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約統編なし）を購入してください。</p>
参考書	<p>参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。</p>

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	市川 哲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教、特に聖書の信仰について理解を深め、また文化としてのキリスト教、という側面にも触れる機会を持つ。						
授業の概要	<p>この「キリスト教学I」は、必修科目として開設されています。キリスト教の精神に基いて建てられた松蔭女子学院の使命として、学生がキリスト教思想に触れ、その精神を理解することが願われているからです。この講義の中で扱う内容として、以下の3点が挙げられます。</p> <p>① キリスト教信仰の目的とは何か。聖書に込められている精神とはなにか。これらについて、特に文化的な視点で捉える。</p> <p>② 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。</p> <p>③ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。</p> <p>この講義は、キリスト教の伝道（布教）を目的とするものではありません。しかし、ある特定の思想を学ぶ際に、それ自体についての基礎的な知識をもつことは大切です。試験ではその点についても、評価の対象とします。</p>						
到達目標	キリスト教という、近代社会の形成の上で重要な役割を果たした一つの価値観、そして欧米の文化の重要な要素としての宗教を理解することは、こくさいせいをみにつけるうえでも、また今自分の属する現代社会の把握や関わり方を見つめなおすことでも、大きな意味があります。そのための助けとなることができると思います。						
授業計画	<p>15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性があります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行ないます。</p> <p>第1回 キリスト教とは（ガイダンス）、聖書とはどのような書物か I  第2回 聖書とはどのような書物か II、イエス・キリストの生涯  第3回 イエスの福音 I 悪霊  第4回 イエスの福音 II 病気直し  第5回 イエスの福音 III たとえ話  第6回 イエスの福音 IV 「いと小さきもの」への視座  第7回 イエスの福音 V 律法との対決  第8回 イエスの受難、復活  第9回 イエスの昇天から初代教会、教会の分裂と一致  第10回 旧約聖書の時代史 I バビロン捕囚を基点として  第11回 旧約聖書の時代史 II イスラエル共同体の成立  第12回 キリスト教と音楽  第13回 神戸のキリスト教と阪神・淡路大震災  第14回 旧約聖書の時代史 III 捕囚以降  第15回 破壊的カルトについて</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし小レポートを課すことあり。						
授業方法	講義に加え、授業時間中に小レポートを記述、提出することもあります。						
評価基準と評価方法	<p>期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。なお平均点を75点程度にする必要があります（教務からの指示）。そのため受講者の不利益にならない程度で点数調整する場合があります。</p> <p>出席については、講義期間全体のうち半数の出席が必要とします（補講・試験を除く）。ただし、出席日数を点数に換算することはありません。</p> <p>点数内訳 ① 小レポート（5点×5 + <math>\alpha</math>）  期間内に5回以上、適宜講義時間中に感想等を述べたり、課題に回答するレポートを課します。</p> <p>② 論文 または 定期試験（75点）  論文：期間内に1回、論文の課題を出します。テーマ・期限等は5月上旬ごろに示します。  定期試験：期末に試験をおこないます。問題の一部は、講義時間中に発表します。  論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。期限は論文の方が早くなる予定です。状況を見て自分で判断してください。</p> <p>③ 教会出席レポート（15点）  これまで教会の礼拝に出席の経験がある人に限定とします。あらかじめ出席教会の登録が必要です。詳しくは別紙参照。</p>						

評価基準と 評価方法	<p>④ 文献紹介（15点） 論文と別に、課題としてあげた書籍からひとつを選び、内容および感想を記していただきます。書名・期限等は、論文と同じ時に示します。</p> <p>各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。</p>
教科書	<p>『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人は、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約統編なし）を購入してください。</p>
参考書	<p>参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。</p>

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教への入門						
授業の概要	キリスト教への入門。宗教としてのキリスト教の特徴と歴史を学ぶ。イエスの生涯と思想について福音書を通して学ぶ。文学作品として福音書を読む。						
到達目標	宗教としてのキリスト教の特徴を知る。イエスの教えに親しむ。						
授業計画	1) 聖書の内容（1）、キリスト教はどのような宗教か 2) 聖書の内容（2）、礼拝と音楽（1） 3) 古代イスラエルの歴史、礼拝と音楽（2） 4) 神と人間（1） 5) 神と人間（2）、礼拝と音楽（3） 6) イエスの教え（1）、福音書について（1） 7) イエスの教え（2）、福音書について（2） 8) キリスト教の歴史（1） 9) キリスト教の歴史（2） 10) イエスの生涯（1） 11) イエスの教え（3）主の祈り 12) イエスの教え（4） 13) イエスの生涯（3）受難物語 14) イエスの生涯（4）受難物語 15) まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	福音書の必要な箇所を読んでおくこと。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点50%（小テストおよび小レポートを含む）、期末の試験50%を原則とする。						
教科書	「聖書」（どの聖書を用いるかは、最初の講義で指示する）						
参考書							

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	小林 昭博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教を知る――キリスト教概論						
授業の概要	本授業は「キリスト教を知る――キリスト教概論」というテーマに基づいて、聖書やキリスト教の歴史ならびに文化を講じ、キリスト教の概論的知識を身につけた上で、新約聖書の福音書を読み進めながら、イエスの教えと生涯に焦点を当てて授業を進めていきます。						
到達目標	聖書の成り立ちと内容、キリスト教の歴史や文化、そしてイエスの教えと生涯を知ることを通して、本学の建学の精神であるキリスト教に触れ、それと同時にキリスト教と聖書を学問的に「知る」ことによって、西洋の思想、歴史、文化等を理解する基礎を養うことができるようになります。						
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、定期試験、聖書等の説明。</p> <p>2回目 聖書を知るⅠ 聖書と正典、旧約聖書と新約聖書。</p> <p>3回目 聖書を知るⅡ 旧約聖書概論、十戒を読む（出エジプト記20章）。</p> <p>4回目 聖書を知るⅢ 新約聖書概論、新約聖書の文学類型（福音書、行伝、書簡、黙示録）。</p> <p>5回目 キリスト教の歴史を知るⅠ キリスト教通史、教会史概論。</p> <p>6回目 キリスト教の歴史を知るⅡ キリスト教思想史、ティートリヒ・ボンヘッファーの生涯と思想。</p> <p>7回目 キリスト教の文化を知る キリスト教の文化、キリスト教の儀式と礼典。</p> <p>8回目 イエスの教えを知るⅠ 山上の説教（マタイ福音書5-7章）。</p> <p>9回目 イエスの教えを知るⅡ 主の祈り（マタイ福音書6章9-15節、ルカ福音書11章2-4節）</p> <p>10回目 イエスの生涯を知るⅠ イエスと隣人愛（ヨハネ福音書13章31-35節、15章11-17節）。</p> <p>11回目 イエスの生涯を知るⅡ イエスと心（マタイ福音書6章19-21節、ルカ福音書12章22-34節）。</p> <p>12回目 イエスの生涯を知るⅢ イエスの誕生と二つのクリスマス物語（マタイ福音書1-2章、ルカ福音書1-2章）。</p> <p>13回目 イエスの生涯を知るⅣ イエスの受難と復活の物語Ⅰ（マルコ福音書14-16章）。</p> <p>14回目 試験とイエスの生涯を知るⅤ 授業中試験、イエスの受難と復活の物語Ⅱ（マルコ福音書14-16章）。</p> <p>15回目 キリスト教を知る 授業の総まとめ、試験に対するフィードバック。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画で聖書箇所が挙げられているときには、その聖書を事前に読んできてください。 授業後学習：配布プリントをそこで挙げられている聖書テキストに当たりながら丁寧に読み返し、興味ある内容に出会ったときには、プリントの最後に列挙している参考文献を読んで、さらに学びを深めてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	通常評価 30%、定期試験評価 70%。						
教科書	<p>1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 上記に挙げた聖書を用意してください。聖書には大型、中型、小型、およびハンディタイプなどがありますので自分の用途に合わせて購入してください。第1回目の授業で用意する聖書の詳細について説明します。</p> <p>2. 配布プリント（レジュメ）。</p> <p>毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。なお、授業において配布するプリント（レジュメ）は試験に持ち込めますので、授業中に担当者から指示のあった内容や各自が重要だと判断したことをメモに取り、自分のプリントを復習のために精読すれば、キリスト教学Ⅰの重要な学習になると同時に、それがそのまま試験対策にもなります。</p>						

参考書	毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。
-----	--

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	小林 昭博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教を知る――キリスト教概論						
授業の概要	本授業は「キリスト教を知る――キリスト教概論」というテーマに基づいて、聖書やキリスト教の歴史ならびに文化を講じ、キリスト教の概論的知識を身につけた上で、新約聖書の福音書を読み進めながら、イエスの教えと生涯に焦点を当てて授業を進めていきます。						
到達目標	聖書の成り立ちと内容、キリスト教の歴史や文化、そしてイエスの教えと生涯を知ることを通して、本学の建学の精神であるキリスト教に触れ、それと同時にキリスト教と聖書を学問的に「知る」ことによって、西洋の思想、歴史、文化等を理解する基礎を養うことができるようになります。						
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、定期試験、聖書等の説明。</p> <p>2回目 聖書を知るⅠ 聖書と正典、旧約聖書と新約聖書。</p> <p>3回目 聖書を知るⅡ 旧約聖書概論、十戒を読む（出エジプト記20章）。</p> <p>4回目 聖書を知るⅢ 新約聖書概論、新約聖書の文学類型（福音書、行伝、書簡、黙示録）。</p> <p>5回目 キリスト教の歴史を知るⅠ キリスト教通史、教会史概論。</p> <p>6回目 キリスト教の歴史を知るⅡ キリスト教思想史、ティートリヒ・ボンヘッファーの生涯と思想。</p> <p>7回目 キリスト教の文化を知る キリスト教の文化、キリスト教の儀式と礼典。</p> <p>8回目 イエスの教えを知るⅠ 山上の説教（マタイ福音書5-7章）。</p> <p>9回目 イエスの教えを知るⅡ 主の祈り（マタイ福音書6章9-15節、ルカ福音書11章2-4節）</p> <p>10回目 イエスの生涯を知るⅠ イエスと隣人愛（ヨハネ福音書13章31-35節、15章11-17節）。</p> <p>11回目 イエスの生涯を知るⅡ イエスと心（マタイ福音書6章19-21節、ルカ福音書12章22-34節）。</p> <p>12回目 イエスの生涯を知るⅢ イエスの誕生と二つのクリスマス物語（マタイ福音書1-2章、ルカ福音書1-2章）。</p> <p>13回目 イエスの生涯を知るⅣ イエスの受難と復活の物語Ⅰ（マルコ福音書14-16章）。</p> <p>14回目 試験とイエスの生涯を知るⅤ 授業中試験、イエスの受難と復活の物語Ⅱ（マルコ福音書14-16章）。</p> <p>15回目 キリスト教を知る 授業の総まとめ、試験に対するフィードバック。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画で聖書箇所が挙げられているときには、その聖書を事前に読んできてください。 授業後学習：配布プリントをそこで挙げられている聖書テキストに当たりながら丁寧に読み返し、興味ある内容に出会ったときには、プリントの最後に列挙している参考文献を読んで、さらに学びを深めてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	通常評価 30%、定期試験評価 70%。						
教科書	<p>1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 上記に挙げた聖書を用意してください。聖書には大型、中型、小型、およびハンディタイプなどがありますので自分の用途に合わせて購入してください。第1回目の授業で用意する聖書の詳細について説明します。</p> <p>2. 配布プリント（レジュメ）。</p> <p>毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。なお、授業において配布するプリント（レジュメ）は試験に持ち込めますので、授業中に担当者から指示のあった内容や各自が重要だと判断したことをメモに取り、自分のプリントを復習のために精読すれば、キリスト教学Ⅰの重要な学習になると同時に、それがそのまま試験対策にもなります。</p>						

参考書	毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。
-----	--

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	小林 昭博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教を知る――キリスト教概論						
授業の概要	本授業は「キリスト教を知る――キリスト教概論」というテーマに基づいて、聖書やキリスト教の歴史ならびに文化を講じ、キリスト教の概論的知識を身につけた上で、新約聖書の福音書を読み進めながら、イエスの教えと生涯に焦点を当てて授業を進めていきます。						
到達目標	聖書の成り立ちと内容、キリスト教の歴史や文化、そしてイエスの教えと生涯を知ることを通して、本学の建学の精神であるキリスト教に触れ、それと同時にキリスト教と聖書を学問的に「知る」ことによって、西洋の思想、歴史、文化等を理解する基礎を養うことができるようになります。						
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、定期試験、聖書等の説明。</p> <p>2回目 聖書を知るⅠ 聖書と正典、旧約聖書と新約聖書。</p> <p>3回目 聖書を知るⅡ 旧約聖書概論、十戒を読む（出エジプト記20章）。</p> <p>4回目 聖書を知るⅢ 新約聖書概論、新約聖書の文学類型（福音書、行伝、書簡、黙示録）。</p> <p>5回目 キリスト教の歴史を知るⅠ キリスト教通史、教会史概論。</p> <p>6回目 キリスト教の歴史を知るⅡ キリスト教思想史、ディートリヒ・ボンヘッファーの生涯と思想。</p> <p>7回目 キリスト教の文化を知る キリスト教の文化、キリスト教の儀式と礼典。</p> <p>8回目 イエスの教えを知るⅠ 山上の説教（マタイ福音書5-7章）。</p> <p>9回目 イエスの教えを知るⅡ 主の祈り（マタイ福音書6章9-15節、ルカ福音書11章2-4節）</p> <p>10回目 イエスの生涯を知るⅠ イエスと隣人愛（ヨハネ福音書13章31-35節、15章11-17節）。</p> <p>11回目 イエスの生涯を知るⅡ イエスと心（マタイ福音書6章19-21節、ルカ福音書12章22-34節）。</p> <p>12回目 イエスの生涯を知るⅢ イエスの誕生と二つのクリスマス物語（マタイ福音書1-2章、ルカ福音書1-2章）。</p> <p>13回目 イエスの生涯を知るⅣ イエスの受難と復活の物語Ⅰ（マルコ福音書14-16章）。</p> <p>14回目 試験とイエスの生涯を知るⅤ 授業中試験、イエスの受難と復活の物語Ⅱ（マルコ福音書14-16章）。</p> <p>15回目 キリスト教を知る 授業の総まとめ、試験に対するフィードバック。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画で聖書箇所が挙げられているときには、その聖書を事前に読んできてください。 授業後学習：配布プリントをそこで挙げられている聖書テキストに当たりながら丁寧に読み返し、興味ある内容に出会ったときには、プリントの最後に列挙している参考文献を読んで、さらに学びを深めてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	通常評価 30%、定期試験評価 70%。						
教科書	<p>1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 上記に挙げた聖書を用意してください。聖書には大型、中型、小型、およびハンディタイプなどがありますので自分の用途に合わせて購入してください。第1回目の授業で用意する聖書の詳細について説明します。</p> <p>2. 配布プリント（レジュメ）。</p> <p>毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。なお、授業において配布するプリント（レジュメ）は試験に持ち込めますので、授業中に担当者から指示のあった内容や各自が重要だと判断したことをメモに取り、自分のプリントを復習のために精読すれば、キリスト教学Iの重要な学習になると同時に、それがそのまま試験対策にもなります。</p>						

参考書	毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。
-----	--

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教の基礎知識						
授業の概要	本講義ではキリスト教の基礎知識（旧約聖書ダイジェスト、新約聖書ダイジェスト、イエス・キリストの生涯、キリスト教史ダイジェストなど）を提供します。さらにキリスト教思想（原罪論、贖罪論など）のエッセンスを今日の文脈において再解釈しつつ論じます。						
到達目標	到達目標は、神戸松蔭の建学の精神を学問的なキリスト教の知識に基づいて説明できるようになることです。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:キリスト教を学ぶ意味 第3回:旧約聖書ダイジェスト (1) 天地創造の神話 第4回:旧約聖書ダイジェスト (2) イスラエル民族の興亡 第5回:旧約聖書ダイジェスト (3) 救世主の待望 第6回:新約聖書ダイジェスト (1) 新約聖書成立の謎 第7回:新約聖書ダイジェスト (2) イエス・キリストの生涯 第8回:新約聖書ダイジェスト (3) イエス・キリストの思想 第9回:キリスト教史ダイジェスト (1) 古代・中世・十字軍 第10回:キリスト教史ダイジェスト (2) 宗教改革・イギリス宗教改革 第11回:キリスト教史ダイジェスト (3) ローマ教皇史 第12回:日本キリスト教史ダイジェスト 第13回:キリスト教思想 (1) 原罪論 第14回:キリスト教思想 (2) 贖罪論 第15回:まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配られたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	プリントを配布します。『聖書』の購入については、初回の講義において説明します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：概要と略史  第3回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第4回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第5回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第6回 イエスを知るには：新約聖書と福音書  第7回 イエスの誕生（1）  第8回 イエスの誕生（2）  第9回 聖ニコラスとサンタクロース  第10回 イエスの公生涯（1）：伝道活動の始まり  第11回 イエスの公生涯（2）：「愛」について  第12回 イエスの公生涯（3）：喩え話と癒しの奇跡  第13回 受難と復活（1）：イエスはどのように十字架にかけられたか？  第14回 受難と復活（2）：復活をどう理解するか？  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：概要と略史  第3回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第4回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第5回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第6回 イエスを知るには：新約聖書と福音書  第7回 イエスの誕生（1）  第8回 イエスの誕生（2）  第9回 聖ニコラスとサンタクロース  第10回 イエスの公生涯（1）：伝道活動の始まり  第11回 イエスの公生涯（2）：「愛」について  第12回 イエスの公生涯（3）：喩え話と癒しの奇跡  第13回 受難と復活（1）：イエスはどのように十字架にかけられたか？  第14回 受難と復活（2）：復活をどう理解するか？  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：概要と略史  第3回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第4回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第5回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第6回 イエスを知るには：新約聖書と福音書  第7回 イエスの誕生（1）  第8回 イエスの誕生（2）  第9回 聖ニコラスとサンタクロース  第10回 イエスの公生涯（1）：伝道活動の始まり  第11回 イエスの公生涯（2）：「愛」について  第12回 イエスの公生涯（3）：喩え話と癒しの奇跡  第13回 受難と復活（1）：イエスはどのように十字架にかけられたか？  第14回 受難と復活（2）：復活をどう理解するか？  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：概要と略史  第3回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第4回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第5回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第6回 イエスを知るには：新約聖書と福音書  第7回 イエスの誕生（1）  第8回 イエスの誕生（2）  第9回 聖ニコラスとサンタクロース  第10回 イエスの公生涯（1）：伝道活動の始まり  第11回 イエスの公生涯（2）：「愛」について  第12回 イエスの公生涯（3）：喩え話と癒しの奇跡  第13回 受難と復活（1）：イエスはどのように十字架にかけられたか？  第14回 受難と復活（2）：復活をどう理解するか？  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合もあります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：概要と略史  第3回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第4回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第5回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第6回 イエスを知るには：新約聖書と福音書  第7回 イエスの誕生（1）  第8回 イエスの誕生（2）  第9回 聖ニコラスとサンタクロース  第10回 イエスの公生涯（1）：伝道活動の始まり  第11回 イエスの公生涯（2）：「愛」について  第12回 イエスの公生涯（3）：喩え話と癒しの奇跡  第13回 受難と復活（1）：イエスはどのように十字架にかけられたか？  第14回 受難と復活（2）：復活をどう理解するか？  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合もあります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の生涯、働き、教えについて聖書を通して学びます。また、イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：概要と略史  第3回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第4回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第5回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第6回 イエスを知るには：新約聖書と福音書  第7回 イエスの誕生（1）  第8回 イエスの誕生（2）  第9回 聖ニコラスとサンタクロース  第10回 イエスの公生涯（1）：伝道活動の始まり  第11回 イエスの公生涯（2）：「愛」について  第12回 イエスの公生涯（3）：喩え話と癒しの奇跡  第13回 受難と復活（1）：イエスはどのように十字架にかけられたか？  第14回 受難と復活（2）：復活をどう理解するか？  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合もあります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-1／キリスト教学II／（聖書）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	詩篇を読む						
授業の概要	聖書から詩篇を中心に人間と自然の関係を考えるのに適したテキストを読み解説する。						
到達目標	人間と自然の関係についての理解を深める。古代の伝承文学を読むための基礎的な方法を習得する。						
授業計画	1) 旧約の全体像、パレスチナの風土 2) 古代イスラエル史の概略、パレスチナの四季 3) 古代イスラエルにおける農民の暮らし 4) 家畜の飼育、羊飼いの生活 5) 詩篇（賛美の歌） 6) 詩篇の中の羊飼い 7) 詩篇（シオンの歌） 8) 詩篇（嘆きの歌） 9) 聖書の中の動物と植物 10) 安息日と安息年 11) 天地創造；創世記1章以下（1） 12) 天地創造；創世記1章以下（2） 13) 詩篇104篇 14) 詩篇104篇、試験 15) まとめと補足説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で取り上げる聖書の箇所を繰り返し読むこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点40%（小レポートを含む）、筆記試験60%。ただし、優秀な小レポートに関しては、加点することがある。						
教科書	聖書。1回生で使用したものと同一でよい。						
参考書							

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-10/キリスト教史II/（歴史と文化）						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	宗教国家アメリカの形成と発展						
授業の概要	本講義では、キリスト教史の観点から、アメリカの歴史（建国事情から現代まで）と文化を読み解きます。また、アメリカの時事問題についても言及し、受講生に読解の手がかりを与えます。						
到達目標	到達目標は、宗教国家という観点からアメリカの本質を知ること、講義を通してアメリカの特徴を知り、日米関係の在り方を考察できるようになることです。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:アメリカ・キリスト教史 (1) 宗教国家アメリカの胎動 第3回:アメリカ・キリスト教史 (2) ピルグリム・ファーザーズ 第4回:アメリカ・キリスト教史 (3) 大覚醒 第5回:アメリカ・キリスト教史 (4) マニフェスト・ディスティニー 第6回:アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論 (1) 文化と宗教 第7回:アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論 (2) キリスト教とデモクラシー 第8回:アメリカの選民思想 第9回:アメリカのキリスト教原理主義 (1) モンキートライアル 第10回:アメリカのキリスト教原理主義 (2) 妊娠中絶・同性愛の問題 第11回:大統領とキリスト教 (1) 政策と宗教 第12回:大統領とキリスト教 (2) 選挙と宗教 第13回:アメリカの国家戦略とロビイスト 第14回:未来予想図—日米関係の展望 第15回:まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配布されたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-11/キリスト教と文化4/（歴史と文化）						
担当教員	竹田 文彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本キリシタン史 - 迫害と弾圧、そして再発見の物語						
授業の概要	1549年、フランシスコ・ザビエルの宣教に始まるキリシタンの歴史は、キリスト教という西欧の宗教と極東の国日本との出会いであると同時に、厳しい弾圧と迫害の歴史であった。キリシタンのある者は殉教し、ある者は信仰を隠しながら守り抜こうとし、また、ある者は禁制に耐えかねて棄教者となっていった。本講座は、このキリシタン史をより広く世界史的視点から位置づけるとともに、それが近代日本の精神史に与えた影響について考察することを目的としている。						
到達目標	キリシタンの歴史を学ぶことを通して、より広い世界的視野にたつて日本文化を眺めることができるようになるとともに、異文化に対する理解の大切さや信仰が人を突き動かす強さなど、様々なことを学んで欲しい。						
授業計画	第1回 序 - キリシタン史を理解するために 第2回 キリスト教の日本布教の背景としての世界史的状況 第3回 フランシスコ・ザビエルの日本布教 - キリスト教と日本の最初の出会 第4回 ザビエルの志を受け継いだ人々 - イエズス会宣教師たちの宣教方針 第5回 信長時代のキリシタン 第6回 天正遣欧少年使節団 第7回 秀吉と伴天連追放令 第8回 二十六聖人の殉教 第9回 徳川幕府による禁教体制の確立 第10回 島原の乱 第11回 潜伏のキリシタン 第12回 開国と大浦天主堂におけるキリシタン信徒発見 第13回 明治政府による迫害の継続と浦上四番崩れ 第14回 近代日本とキリスト教 第15回 キリシタンの残したモノ - 茶道とミサ						
授業外における学習（準備学習の内容）	より身近にキリシタンのことを感じてもらうために畿内（京都市、茨木市、高槻市、長岡京市など）や可能ならば、長崎県、熊本県に多く残っているキリシタン史跡やキリシタン資料館への訪問などを強く勧める。						
授業方法	講義形式が主だが、授業中にキリシタン史に関するビデオなどを見てもらい、リアクション・ペーパーを書いてもらうこともある。						
評価基準と評価方法	学期末のレポートと出席の状況、ならびにリアクション・ペーパーなどの平常点を総合して評価する。最低でも3分の2以上の出席が必要。学期末レポートは、キリシタン史における主要な人物や重要な出来事について調べてレポートにまとめるか、あるいは、キリシタン史を背景とする文学作品を読んで感想文を書いてもらう。						
教科書	結城了悟 『ザビエルからはじまった日本の教会の歴史』 女子パウロ会 ISBN: 978-4-7896-0659-2。						
参考書	長崎県企画 『旅する長崎学 キリシタン文化(五分冊)』 長崎文献社 ISBN: 978-4-88851-115-2。 五野井隆史 『日本キリスト教史』 吉川弘文館 ISBN: 978-4-64207-287-8。 海老沢有道 『日本キリシタン史』 塙書房 ISBN: 978-4-8273-3552-4。 川崎桃太 『フロイスの見た戦国日本』 中公文庫 ISBN: 4-12-204655-6。 ルイス・フロイス 『日本二十六聖人殉教記』 結城了訳 聖母の騎士社 ISBN: 978-4-882-16154-7。 山本博文 『殉教 - 日本人は何を信仰したか』 光文社新書 ISBN: 978-4-334-03532-7。 片岡弥吉 『浦上四番崩れ - 明治政府のキリシタン弾圧』 ちくま文庫 ISBN: 978-4-480-02535-7。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学11-12／キリスト教と文化5／（歴史と文化）						
担当教員	日野 謙一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	生活世界と宗教意識						
授業の概要	日本近代化過程における宗教の役割とその中でのキリスト教の役割についても考えていく。また、日常生活で行われている宗教儀礼、生活に内在する死生観、様々な問題を抱えて「境界」に生きる人びとの世界観や生き方にふれるなど、これからのことを通して生活世界に内在する宗教意識を探っていきたいと思う。						
到達目標	日常生活における宗教意識の存在に気づき、生き生活していく上で宗教の役割がどのように関係しているかについて考える。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 「宗教」についての考え方 第3回 宗教と生活 第4回 日常生活と宗教（ワーク） 第5回 日常生活と宗教（ワーク） 第6回 日常生活と宗教（ワーク） 第7回 「境界」を生きる（生・死、そんざい、に向く人びとの声を聴く） 第8回 「境界」を生きる 第9回 「境界」を生きる 第10回 「境界」を生きる 第11回 儀礼と境界 第12回 近代と宗教意識 第13回 近代と宗教意識 第14回 日常に内在する思惟様式の課題 第15回 授業を通して						
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて資料等を配布するので、その内容を考えてくること・中間にレポートの作成等を行うので、事前にその内容等の検討が必要となる。						
授業方法	講義 但し、ワークを通してレポートの作成等の参加型学習も行う。						
評価基準と評価方法	期末レポート 60% レポート等 40%						
教科書	使用しない						
参考書	マックス・ウェーバー『宗教社会学論選』みすず書房 濱谷正晴『原爆体験』岩波書店 キューブラ・ロス『死ぬ瞬間』読売新聞社 武田清子『土着と背教』新教出版 安丸良夫『神々の明治維新』岩波新書						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-13／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教世界から世界キリスト教へ						
授業の概要	<p>長い間ヨーロッパ中心に発展してきたキリスト教は、近代の海外宣教運動の結果、世界各地に根を下ろし、今や文字通りの「世界宗教」となりました。このようなグローバル化により、キリスト教の重心は今日西洋から非西洋世界にシフトし、半世紀前までは欧米「キリスト教世界」の宗教であったキリスト教に代わり「世界キリスト教」が出現しつつあると言われています。本講座では、このようなキリスト教のグローバル化現象を、主に歴史的・異文化間的観点から考察することによってキリスト教の現在への理解を深めます。</p> <p>全体は3つの部分に別れます。第1部では、ヨーロッパから生まれた主要キリスト教諸伝統について概観します。教派の違いや歴史に関する知識は現代のキリスト教の理解に不可欠だからです。第2部では、キリスト教のグローバル化において重要な役割を演じた海外宣教運動の歴史を学びます。第3部では、キリスト教が日本にどのようにもたらされたかを考えます。西欧の諸教派だけでなく、ロシア正教も取り上げて日本のキリスト教の多様性に目を向けたいと思います。</p>						
到達目標	<p>「どうして日本にキリスト教があるの?」「どうしてキリスト教にはいろいろな宗派(教派)があるの?」というよく耳にする質問に答えられるようになること。また、キリスト教の持つ cross-cultural な本質を理解すること。</p>						
授業計画	<p>■序論 第1週 Christendom からWorld Christianityへ</p> <p>■西洋のキリスト教 第2週 ローマ・カトリックと東方正教 第3週 プロテスタント諸派 第4週 アングロサクソン系のキリスト教(1) 第5週 アングロサクソン系のキリスト教(2)</p> <p>■キリスト教世界を越えて 第6週 ローマ・カトリックの海外宣教運動 第7週 近代プロテスタント海外宣教運動:18世紀 第8週 近代プロテスタント海外宣教運動:19世紀 第9週 海外宣教運動の光と影</p> <p>■日本とキリスト教 第10週 日本のキリスト教受容:16世紀 第11週 日本のキリスト教受容:19世紀以降 第12週 女性宣教師の働き 第13週 日本キリスト教の特殊性</p> <p>■まとめ 第14週 キリスト教の新しい姿 第15週 結語</p> <p>注意: 以上は計画ですので、変更となる可能性もあります。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	特にありませんが、神戸の町を歩く時、あちこちにあるキリスト教会に注意して、教会の名称、所属教派などに気をつけてみて下さい。講義内容がより身近なものになると思います。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、期末レポート、平常点により評価します(小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定)。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。詳細は初回の授業で説明します。						
教科書	教科書はありません。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-14／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	近藤 剛						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	欧米社会の文化とキリスト教						
授業の概要	世界情勢を語る上で、欧米の動向は決定的な意味を持っており、触れないわけにはいきません。グローバル・スタンダードの構築に指導的な役割を果たしてきた欧米文化の形成には、聖書からの影響が少なからず見受けられます。例えば、デモクラシーや資本主義といった欧米的システムの根幹にも、聖書の思想が反映されています。本講義では、欧米の思考パターンを聖書の思想との関連で解説し、その視点から世界情勢を読み解いていきます。適宜、テーマに関係するキリスト教文化（歳時記、文学、世界遺産など）、時事問題、映画評論なども取り上げる予定です。						
到達目標	到達目標は、様々な事例を通して、現代社会におけるキリスト教の意味を考察できるようになることです。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:聖書と世界戦略 (1) パレスチナ問題の真相の深層 前編 第3回:聖書と世界戦略 (2) パレスチナ問題の真相の深層 後編 第4回:聖書と世界戦略 (3) 一神教のストラテジー 第5回:聖書と世界戦略 (4) 十字軍のイデオロギー 第6回:聖書と世界戦略 (5) 聖戦の理念と平和の神学 第7回:キリスト教と近代 (1) 宗教的寛容と信教の自由 前編 第8回:キリスト教と近代 (2) 宗教的寛容と信教の自由 後編 第9回:キリスト教と近代 (3) デモクラシーの神学的解題 第10回:キリスト教と近代 (4) 資本主義の神学的解題 第11回:キリスト教文化の諸相 (1) 世界遺産エルサレム物語 第12回:キリスト教文化の諸相 (2) 世界遺産バチカン物語 第13回:キリスト教文化の諸相 (3) 天国と地獄—ダンテ『神曲』の世界観 第14回:キリスト教文化の諸相 (4) 天使と悪魔 第15回:まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配られたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-15/キリスト教学II/（現代社会とキリスト教）						
担当教員	市川 哲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の中でキリスト教との関わりの重要ないくつかの点について考察する。						
授業の概要	<p>「キリスト教学II」は、概論である「キリスト教学I」の先にある選択科目として、さらに詳しいキリスト教の内容を学ぶ学生を対象に開講されています。この講義では、現代社会の中でキリスト教が果たしている役割や、あるいは強く求められている責任について論じます。また今期の講義においては特に、昨年発生した東日本大震災と、その中で今も深刻な被害を加え続けている原発事故の状況、そして「いのち」と本来強くかかわっているキリスト教と「生命科学」という生物学的な世界の関係性の重要性についても時間を割き、論議を深めたいと考えています。</p> <p>この講義の中で扱う内容として、以下の4点が挙げられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① キリスト教と「生命科学」の関係は、進化論論争など、キリスト教の側の問題性が目立つところがある。「生物」や「環境」について丁寧に論じつつ、キリスト教の果たすべきあり方を考える。</li> <li>② 社会の中の差別の諸問題、あるいは近代史の中での重要な問題について、キリスト教との関わりが深いいくつかの課題について取り上げる。</li> <li>③ 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。</li> <li>④ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。</li> </ol>						
到達目標	キリスト教という、近代社会の形成の上で重要な役割を果たした一つの価値観を理解しつつ、その良い面だけでなく負の側面も合わせて客観的に理解することで、今自分の属する現代社会の把握や関わり方を見つめなおすことができると思います。						
授業計画	<p>15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性があります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行ないます。</p> <p>第1回 生命科学とキリスト教Ⅰ 進化をめぐって  第2回 生命科学とキリスト教Ⅱ 食べることをめぐって  第3回 生命科学とキリスト教Ⅲ 新しい生命技術と生命倫理  第4回 生命科学とキリスト教Ⅳ 環境問題と生物多様性問題  第5回 生命科学とキリスト教Ⅴ ウイルスという隣人  第6回 東日本大震災から1年を経て  第7回 キリスト教は性差別を克服できるか  第8回 セクシュアル・マイノリティ差別からの解放  第9回 部落差別とキリスト教社会運動  第10回 アイヌ差別との戦い  第11回 イスラム教とは  第12回 イスラム世界の絶望とキリスト教の分裂  第13回 キリスト教が反ナチス運動から学んだこと  第14回 脱原発・護憲運動と宗教間対話  第15回 破壊的カルトについて</p> <p>この講義は全く新しい分野を含むものであり、受講生の反応を受けて内容を検討しながら進めていきたいと考えています。また自然災害をはじめ社会的に大きな事件が生じることがあれば、講義で扱う可能性もあります。そのため、場合によっては内容を大幅に変更することもあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし小レポートを課すことあり。						
授業方法	講義に加え、授業時間中に小レポートを記述、提出することもあります。						
評価基準と評価方法	<p>期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。なお平均点を75点程度にする必要があります。そのため受講者の不利益にならない程度で点数調整する場合があります。</p> <p>出席については、講義期間全体のうち半数の出席が必要とします（補講・試験を除く）。ただし、出席日数を点数に換算することはありません。</p> <p>Iを受講された学生は、基本的に評価の仕方が同じと考えてもらって良いと思います。</p> <p>点数内訳 ① 小レポート（5点×5 +α）  期間内に5回以上、適宜講義時間中に感想等を述べたり、課題に回答するレポートを課します。</p> <p>② 論文 または 定期試験（75点）  論文：期間内に1回、論文の課題を出します。テーマ・期限等は5月</p>						

評価基準と 評価方法	<p>上旬ごろに示します。 定期試験：期末に試験をおこないます。問題の一部は、講義時間中に発表します。 論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。期限は論文の方が早くなる予定です。状況を見て自分で判断してください。</p> <p>③ 文献紹介（15点） 論文と別に、課題としてあげた書籍からひとつを選び、内容および感想を記していただきます。書名・期限等は、論文と同じ時に示します。</p> <p>各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。また、病気・事故等で長期欠席の場合、および災害等の被害を受けた場合は、追加の課題を出すことも含め、特別に考慮します。必要書類等を添えて申し出てください。</p>
教科書	<p>『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人は、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約統編なし）を購入してください。</p>
参考書	<p>参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。</p>

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-17／キリスト教学II／（キリスト教と諸宗教）						
担当教員	日野 謙一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「信教の自由」と宗教弾圧について考える						
授業の概要	歴史過程において、新たな思想や宗教の世界観が人びとの心を動かし、社会の変換へと向かう活動や運動となつて、現実の社会に大きなインパクトを与えた出来事が多くある。それらの運動は、時代を先取りしているために権力者から弾圧されてきた。講義では日本の歴史過程のなかで、キリスト教と諸宗教の動向と弾圧を取り上げ、「信教の自由」の重要性について考えたい。						
到達目標	「信教の自由」という内面的な心の問題の重要性を自覚すること、そしてそれらの課題を「当たり前私たち」（権力者ではなく）が社会の変化のなかで、どのように大切にしてきたか、について考え理解できるようになることです。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 「民衆」の生活史を考える 第3回 「千年王国」論と「ミロク」信仰 第4回 「信教の自由」について考える（ワーク） 第5回 「信教の自由」について考える（ワーク） 第6回 「信教の自由」について考える（ワーク） 第7回 中世期における宗教と民衆 第8回 中世期の宗教弾圧 第9回 近世期における宗教と民衆 第10回 近世の宗教弾圧 第11回 近代における国家と宗教（国家神道） 第12回 近代における宗教の動向と弾圧（キリスト教） 第13回 近代における宗教の動向と弾圧（民衆宗教） 第14回 「信教の自由」を考える 第15回 授業を通して						
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて資料等を配布するので、その内容を考えてくること。中間にレポートの作成等を行うので、事前に内容等の検討が必要となる。						
授業方法	講義 但し、ワークを通してレポートの作成等の参加型学習も行う。						
評価基準と評価方法	期末レポート 60% レポート等 40%						
教科書	使用しない						
参考書	海老沢・大内共著『日本キリスト教史』日本基督教団 笠原一男『一向一揆—その行動と思想』評論社 神田千里『島原の乱』中公新書 安丸良夫『神々の明治維新』岩波新書						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-18／キリスト教学II／（キリスト教と諸宗教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	多元世界におけるキリスト教と諸宗教						
授業の概要	<p>20世紀後半、世界は著しく小さくなり、世界の諸宗教が相互に接する機会が非常に多くなりました。一世代前、世界の宗教は近代化・世俗化の進行と共に消滅すると考えられていましたが、21世紀の今日、世界において諸宗教の演じる役割は、良きにつけ悪しきにつけ増大しています。私たちは今や宗教的な多元世界に住んでいるのです。</p> <p>キリスト教はイエス・キリストこそが救いに至る唯一の道であり、イエス・キリストを信じる信仰によってのみ人は救われると教えてきました。しかし、今日の状況にはこのような伝統的な理解では対応できず、他宗教をいかに理解し、いかに共存していくかを問うことがキリスト教にとっても大きな課題となっています。「諸宗教の理解なしに真のキリスト教理解はありえない」とさえ言われるほどです。本講座では、このような問題意識に基づいて、キリスト教と諸宗教の関わりを様々な角度から考察し、その両者についての理解の深めていきたいと思えます。</p> <p>特に、イスラム教とヒンドゥー教を例として取り上げますが、これらはキリスト教と共に信徒数の点で世界の三大宗教をなしており、キリスト教とも長い関わりをもっています。これらを学ぶことを通して、私たちの生きる「地球村」に対する理解を深めることもこの講座の目的です。</p>						
到達目標	キリスト教の宗教理解を知ると同時に、他の世界宗教との対比においてキリスト教の特質についての理解を深めること。また、キリスト教以外の諸宗教に関する基本的な知識を習得すること。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 宗教とは何か  第3回 日本人の宗教性とキリスト教  第4回 聖書の宗教観（1）：旧約時代  第5回 聖書の宗教観（2）：新約時代  第6回 諸宗教を考えるにあたって：宗教的原理主義の問題  第7回 イスラム教（1）：成立と展開  第8回 イスラム教（2）：コーラン  第9回 イスラム教とキリスト教：比較、歴史的関係など  第10回 ヒンドゥー教（1）：起源、聖典、神々  第11回 ヒンドゥー教（2）：世界観と生活  第12回 インド宗教としての仏教  第13回 近代インドにおけるヒンドゥー教とキリスト教  第14回 現代キリスト教における諸宗教理解：類型と対話  第15回 まとめ（レポート提出ないし試験実施日）</p> <p>※以上は計画ですので、変更となる可能性もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし、復習をしっかりと行うこと。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。詳しくは初回の授業で説明します。						
教科書	特にありません。						
参考書	<p>旧新約聖書  『コーラン』（岩波文庫版、全3巻）  『バガヴァッド・ギーター』（岩波文庫版）  M. B. ワング『ヒンドゥー教』（青土社）  M. S. ゴードン『イスラム教』（青土社）</p>						

参考書	その他、必要に応じて紹介します。
-----	------------------

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）																																																			
科目名	キリスト教学II-2／キリスト教学II／（聖書）																																																			
担当教員	宮田 玲																																																			
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	モーセ五書を学ぶ																																																			
授業の概要	モーセ五書とは、旧約聖書の最初の五つの文書、「創世記」、「出エジプト記」、「レビ記」、「民数記」、「申命記」のことです。これらは旧約聖書の基本的な文書であり、わたしたちにもよく知られている物語を多く含んでいます。この授業では、モーセ五書を中心として旧約聖書についての理解を深めたいと思います。また、特に創世記から、いくつかの物語を取り上げてその解釈を紹介します。																																																			
到達目標	旧約聖書の中で主要な位置を占めるモーセ五書について、基本的な事柄を知ることができるようになります。また、書かれている内容や物語に親しく触れることができるようになります。ひいては、新約聖書を旧約聖書との係わりから眺める見方への手がかりを得られるように目指します。																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>旧約聖書の舞台とモーセ五書</td> <td>モーセ五書とは</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>モーセ五書の成り立ち</td> <td>モーセ五書の構造</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>物語（1）</td> <td>アダムとイブの物語</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>物語（2）</td> <td>バベルの塔の物語</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>物語（3）</td> <td>アブラハムとサラの物語</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>物語（4）</td> <td>サラとハガルをめぐる</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>物語（5）・小テスト</td> <td>イサク奉獻</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>物語（6）</td> <td>イサクとリベカ</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>物語（7）</td> <td>ヤコブとエサウ</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>物語（8）</td> <td>ヤコブの夢</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>物語（9）-①</td> <td>出エジプト：エジプトを去る</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>物語（9）-②</td> <td>出エジプト：荒野へ</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>物語（10）</td> <td>十戒</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>物語（11）</td> <td>モーセの死：カナンへ</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>質疑応答と試験</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	旧約聖書の舞台とモーセ五書	モーセ五書とは	第2回	モーセ五書の成り立ち	モーセ五書の構造	第3回	物語（1）	アダムとイブの物語	第4回	物語（2）	バベルの塔の物語	第5回	物語（3）	アブラハムとサラの物語	第6回	物語（4）	サラとハガルをめぐる	第7回	物語（5）・小テスト	イサク奉獻	第8回	物語（6）	イサクとリベカ	第9回	物語（7）	ヤコブとエサウ	第10回	物語（8）	ヤコブの夢	第11回	物語（9）-①	出エジプト：エジプトを去る	第12回	物語（9）-②	出エジプト：荒野へ	第13回	物語（10）	十戒	第14回	物語（11）	モーセの死：カナンへ	第15回	質疑応答と試験	
第1回	旧約聖書の舞台とモーセ五書	モーセ五書とは																																																		
第2回	モーセ五書の成り立ち	モーセ五書の構造																																																		
第3回	物語（1）	アダムとイブの物語																																																		
第4回	物語（2）	バベルの塔の物語																																																		
第5回	物語（3）	アブラハムとサラの物語																																																		
第6回	物語（4）	サラとハガルをめぐる																																																		
第7回	物語（5）・小テスト	イサク奉獻																																																		
第8回	物語（6）	イサクとリベカ																																																		
第9回	物語（7）	ヤコブとエサウ																																																		
第10回	物語（8）	ヤコブの夢																																																		
第11回	物語（9）-①	出エジプト：エジプトを去る																																																		
第12回	物語（9）-②	出エジプト：荒野へ																																																		
第13回	物語（10）	十戒																																																		
第14回	物語（11）	モーセの死：カナンへ																																																		
第15回	質疑応答と試験																																																			
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：前回の授業の内容を復習してきてください。</p> <p>授業後学習：授業時に配布するプリントに授業内容の要点をまとめておいてください。</p>																																																			
授業方法	講義																																																			
評価基準と評価方法	試験 50%、平常点 50%（小テストを含みます）																																																			
教科書	指定しません。																																																			
参考書	<p>並木浩一・荒井章三（編）『旧約聖書を学ぶ人のために』 世界思想社 ISBN978-4-7907-1556-6</p> <p>石川立・中村信博・越後屋朗（編）『聖書 語りの風景』 キリスト新聞社 ISBN4-87395-476-</p> <p>購入する必要はありません。</p>																																																			

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-3／キリスト教学II／（聖書）						
担当教員	小林 昭博						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代世界の課題に触れながら新約聖書を読む						
授業の概要	新約聖書はキリスト教の教典であると同時に、古今東西の古典の中の古典でもあります。したがって、新約聖書はキリスト教徒が信仰を前提として読む宗教の教典（正典）であると同時に、現代を生きるわたしたちがその進む方向性を模索するときに繙く人類の遺産でもあるのです。むろん今から二千年前に書かれた新約聖書が現代世界の直面する課題に直接解答を与えてくれるとは限らないのですが、そこには現代に固有の課題に対しても重要な示唆を与えてくれる古典が持つ深みが潜んでいるのです。授業では、ジェンダー、環境問題、生命倫理、いじめ、プロレス、セクシュアリティ、戦争と平和、現代思想などの課題を取り上げます。一緒に現代世界の様々な課題を考え、新約聖書という古典の深い味わいに触れていきます。						
到達目標	現代世界の諸問題（ジェンダー、原発問題、生命倫理、いじめ、プロレス、セクシュアリティ、戦争と平和、現代思想等）に関する基本的な理解を持つことできると同時に、キリスト教の教典である新約聖書が持つ古典としての深みに学問的に接近する方法を身につけることができるようになります。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、レポート、聖書の引き方等に関する説明。</p> <p>第2回 ジェンダーと新約聖書 ジェンダー論、女性学と男性学、神のジェンダーをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第3回 結婚・非婚と新約聖書 結婚・非婚、性的役割をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第4回 デートDVと新約聖書 デートDVとジェンダー・ヴァイオレンス、DVをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第5回 トランスジェンダーと新約聖書 トランスジェンダーと性同一性障害、トランスジェンダーをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第6回 原発問題と新約聖書 エコロジー、原発と放射能の問題、放射能汚染をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第7回 脳死・臓器移植と新約聖書 生命倫理、脳死、臓器移植、生命をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第8回 終末期医療と新約聖書 終末期医療、ホスピス、終末期医療と来世信仰、死をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第9回 いじめと新約聖書 いじめの現状、教育現場といじめ、いじめをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第10回 プロレスと新約聖書 プロレスと格闘技、リングと人生、プロレスをめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第11回 異性愛と新約聖書 セクシュアリティ研究、異性愛（異性間恋愛）をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第12回 同性愛と新約聖書 クィア・スタディーズ、同性愛（同性間恋愛）をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第13回 平和・戦争と新約聖書 基地問題と沖縄・日本、平和・戦争をめぐる新約聖書テキストを読む。</p> <p>第14回 現代思想と新約聖書 エマニュエル・レヴィナスとジャック・デリダ、イエス受難物語における責任＝応答可能性。</p> <p>第15回 現代世界の課題に触れながら新約聖書を読む 授業の総まとめ。提出レポートに対するフィードバック。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画を参照し、毎授業で論じる現代世界の問題を事前に調べておいてください。 授業後学習：配布プリントをそこで挙げられている新約聖書テキストに当たりながら丁寧に読み返し、興味ある内容に出会ったときには、プリントの最後に列挙している参考文献を読んで、さらに学びを深めてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート評価 70%、通常評価30%。						

教科書	1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 2. 配布プリント（レジュメ）。 毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。
参考書	毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-4/キリスト教学II/（聖書）						
担当教員	小林 昭博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	イエスの生涯を知る—福音書を読む						
授業の概要	<p>本授業は、福音書を精読することを通して「イエスの生涯を知る」ことを目的としています。新約聖書そのものを丁寧に厳密に読んでいきます。したがって、新約聖書を読んでみたい、新約聖書を知りたいと考えている学生やイエスがどのような人物であり、どのようなことを行ったり教えたりしたのかを知りたいと考えている学生を受講者として想定しています。聖書を読むことに慣れていないと、最初は少し難しく感じるかもしれませんが、慣れてくれば、聖書を読む上でのコツをつかむこともできますし、特に福音書は小説を読むように親しく接することのできる文書ですので、「聖書は難しくよく分からないから」と感じている学生にも履修してもらいたいと思っています。本学においてキリスト教を学ぶ機会を得た学生のみならず、イエスの振る舞いや言葉に触れる経験してもらえたらと願っています。</p>						
到達目標	<p>イエスの生涯を知ることによって、人間にとって大切な「何か」を受講生が自ら感得し、そのために必要な新約聖書学の方法論でもある歴史学や文献学の研究の方法を学ぶことによって、新約聖書という古典を自らで繙くことのできる力を身に付け、自分自身で歴史を理解する力を養うことができるようになります。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、レポート、聖書の引き方等の説明。</p> <p>第2回 福音書研究の現状 正典四福音書の思想と特質、共観福音書問題、第四福音書。</p> <p>第3回 奇跡行為者イエス1（マルコ1：21-28） 奇跡物語、ヌミノゼ感情、悪霊祓い、精神疾患に対する蔑視。</p> <p>第4回 奇跡行為者イエス2（ヨハネ9：1-12） 病氣治癒、病と迷信、病理学的疾病と社会文化的病氣。</p> <p>第5回 宗教とタブー1（マルコ2：13-17//マタイ9：9-13//ルカ5：27-32） 罪人との食事、誰と共に食事をするか？ 食卓仲間の問題。</p> <p>第6回 宗教とタブー2（マルコ2：23-28） 安息日論争、主役は人間か宗教か？</p> <p>第7回 イエスの家族（マルコ3：20-21、3：31-35） 家族は敵か味方か？ 家族とは誰か？ 神の家族とは？</p> <p>第8回 イエスと十二弟子（マルコ3：13-19//マタイ10：1-4//ルカ6：12-16、マルコ10：35-45） 十二弟子と十二使徒、十二弟子はイエスの理解者だったか？</p> <p>9回 イエスの教え1（ルカ6：20-23//マタイ5：3-12） 山上の説教、貧しい者は幸いか？ 心の貧しい者は幸いか？</p> <p>第10回 イエスの教え2（ルカ10：25-37） 善きサマリヤ人の譬、ユダヤ人とサマリヤ人、隣人愛と遠人愛、隣人愛の脱構築</p> <p>第11回 イエスの出生の秘密？（マタイ2：1-12、ルカ2：1-20） クリスマスのない福音書、二つのクリスマス物語、クリスマス物語を読む。</p> <p>第12回 イエスの恋愛（マルコ14：3-9、ヨハネ13：23-25、20：11-18、トマス114） イエスをめぐる女性たち、イエスの愛した男弟子、マグダラのマリアとイエス。</p> <p>第13回 イエスと暴力（マルコ11：15-19//マタイ21：12-17//ルカ19：45-48//ヨハネ2：13-22） 宮清め、イエスの暴力、イエスの弟子と暴力。</p> <p>第14回 イエスの十字架死（マルコ15：33-41//マタイ27：45-56//ルカ23：44-49//ヨハネ9：28-31） イエスの死と断末魔の絶叫に関する四福音書間での差異とイエスの死に関する理解。</p> <p>第15回 イエスの生涯を知る—イエスの振る舞いと言葉に触れる。 授業の総まとめ、提出レポートに対するフィードバック。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業計画を参照し、毎授業で論じる新約聖書のテキストを事前に読んできてください。 授業後学習：配布プリントをそこで挙げられている新約聖書テキストに当たりながら丁寧に読み返し、興味ある内容に出会ったときには、プリントの最後に列挙している参考文献を読んで、さらに学びを深めてください。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート評価 70%、通常評価30%。						

教科書	1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 2. 配布プリント（レジュメ）。 毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。
参考書	毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-7/キリスト教と文化2/（キリスト教思想）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ドストエフスキーとキリスト教						
授業の概要	ドストエフスキーは、ロシアのみならず近代ヨーロッパを代表するキリスト教作家で、その作品群は、神・自由・悪といった人間にとって重要な問題を扱っています。それはキリスト教の根幹に関わる神学的問いであると同時に、人間の本質に迫る普遍的な問いでもあり、それゆえ、彼の作品は時代や場所を超えて、今日に至るまで広く読まれ続けています。本講義では、最初にロシア社会とロシア・キリスト教の特徴、ドストエフスキーの生涯を概観し、次に『地下室の手記』『罪と罰』を取り上げ、これらの作品においてキリスト教的なモチーフがどのように扱われているかを検討します。『白痴』『悪霊』『カラマーゾフの兄弟』などの他の主要作品にも短く言及するつもりです。こうして、ドストエフスキーという人と作品におけるキリスト教に光を当てつつ、キリスト教信仰の現代的意義について考察することが本講義の目的です。						
到達目標	ドストエフスキーの全てがわかるようになるとは決して言いません。大変深遠な作家ですから。しかし、通常は見落としがちな彼の作品の神学的側面に焦点を当てますので、より深いドストエフスキー理解のために役立つこと間違いなしです。また、ロシアのキリスト教に対する基本的な知識も得ることができます。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 ドストエフスキーという人 第3回 ロシアという国：古代から中世まで 第4回 ペテルブルグ時代のロシア 第5回 ロシア正教とドストエフスキー 第6回 「地下室の手記」：近代合理主義批判 第7回 「地下室の手記」：被造物としての人間 第8回 「罪と罰」：作品概観 第9回 「罪と罰」：反逆する近代人 第10回 「罪と罰」：ロシア民衆の神学 第11回 「罪と罰」：インマヌエルなる神の知恵 第12回 「罪と罰」：苦悩から復活へ 第13回 「白痴」：キリストは失敗か？ 第14回 「悪霊」と「カラマーゾフ」 第15回 まとめ：キリスト教の現代的意義  ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	『地下室の手記』および『罪と罰』の通読。それぞれに対してレポートを書いてもらいます。また、たびたび聖書に言及しますので、各自、関連箇所を熟読玩味して下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	ドストエフスキー 著「地下室の手記」（新潮文庫）（新潮社） ドストエフスキー 著「罪と罰」（新潮文庫）（新潮社） ★通読してレポートを書いてもらいます。必ず、購入するように。						
参考書	旧新約聖書（★指示ある場合は、授業に持参すること） ドストエフスキー著「白痴」「悪霊」「カラマーゾフの兄弟」（翻訳者・出版社は不問） セルノーフ著「ロシア正教会の歴史」（日本キリスト教団出版局） その他、必要に応じて紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-8／キリスト教と文化3／（キリスト教思想）						
担当教員	狭間 芳樹						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代日本文学とキリスト教思想						
授業の概要	本講義ではまず、「信徒発見」で知られるパリ外国宣教会司祭B. T. プティジャン（1829 -1884）やM. M. ド・ロ（1840-1914）らによる宣教と社会福祉活動といった開国以後のキリスト教史について概観するとともに、キリスト教がその後の日本文化や文学にどのような影響を与えたのかについて学ぶ。そして次に、明治から現代までのキリスト教作家やキリスト教をモチーフにした文学作品（主にベストセラー小説）を取り上げて紹介し、それらを手がかりとして日本のキリスト教思想と文学との関わりについて考察していく。						
到達目標	近現代日本の文学作品に見られるキリスト教思想の影響を学び、分析することにより、日本の文化とキリスト教との関わりについての理解を深めることが受講者各人の到達目標となる。						
授業計画	以下のテーマを中心に授業を進めていくが、アンケート等を適宜実施し、受講者各人の主体的関心にも配慮して授業を進めたい。 第1回 オリエンテーション / はじめに——キリスト教文学とは何か 第2回 明治開国とキリスト教——プティジャン、ド・ロの生涯と社会福祉活動 第3回 明治期日本の文化とキリスト教文学 第4回 芥川龍之介『奉教人の死』（1918年）——キリスト教と聖人伝 第5回 明治期文学者の倫理観とキリスト教 第6回 第5回までの講義のまとめと質疑応答 / 小レポートの作成 第7回 島崎藤村『桜の実の熟する時』（1919年）——罪と贖い 第8回 自然主義文学の興隆と衰退に見る信仰の問題 第9回 堀辰雄『風立ちぬ』（1938年）——幸福感と虚無感 第10回 キリスト教文学における死と生 第11回 三浦綾子『氷点』（1965年）——原罪と赦し 第12回 現代日本文学に占めるキリスト教の位置 第13回 遠藤周作『沈黙』（1966年）——信仰告白と殉教 第14回 日本におけるキリスト教受容と土着化 第15回 まとめ——近現代日本文学におけるキリスト教信仰の意義						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げる文学作品（本シラバスに挙げた小説）のなかで関心のある（あるいは興味を持ってそうな）ものを各自ピックアップし、図書館で閲覧するなどして、事前に一読しておくことを勧めます。						
授業方法	・講義 ・授業理解の一助となるよう、映像の鑑賞なども適宜採り入れる予定である。						
評価基準と評価方法	学期末に提出するレポート……60%、 平常点（感想文および出席など授業に対する積極的な取り組み）……40%						
教科書	・教科書は使用しない。 ・講義テーマ毎に、レジュメおよび資料プリントを配布する。						
参考書	参考書に関しては授業内で随時紹介していくので、授業の内容理解に役立てるとともに、各人の関心を高めるために利用して欲しい。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-9/キリスト教史I/（歴史と文化）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	英国キリスト教史						
授業の概要	本講座では、古代から宗教改革期に至までの英国のキリスト教の歴史を学びます。その際、「英国＝イングランド」という誤解を避け、多民族国家としての英国に着目し、その主要2民族であるイングランド人とスコットランド人の教会がたどった歴史的な道のりを、相互に対比させながら概観していきます。それを通して、この2つの地域にどうして異なるタイプのキリスト教（アングリカンと長老教会）が成立するに至ったかを考えます。						
到達目標	キリスト教といっても戸惑いを起こさせるほどに多様です。本講座の目標は、英国キリスト教に関する基本的な知識を習得すると共に、これを通して、キリスト教の多様性を複眼的に見る目を養い、その由来についての理解を深めることにあります。						
授業計画	第1回 はじめに：キリスト教の伝播と変容 第2回 イングランドとスコットランド 第3回 ローマ帝国教会とイギリス 第4回 ケルト人とキリスト教 第5回 聖オーガスティンの宣教事業 第6回 ホイットビー教会会議とアングロサクソンのキリスト教 第7回 中世という時代：中世キリスト教概観 第8回 中世イングランドとキリスト教 第9回 中世スコットランドとキリスト教 第10回 宗教改革の暁の星：ジョン・ウィクリフ 第11回 ヘンリー8世とイングランド教会の独立 第12回 アングリカニズムの確立とその特徴 第13回 ジョン・ノックスとスコットランド宗教改革 第14回 スコットランド長老主義の成立と主教派（聖公会）の運命 第15回 その後の英国キリスト教  ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし、復習をしっかりと行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	特にありません。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教礼拝学						
担当教員	勝村 弘也・宮本 憲・藤井 尚人						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から現代までの礼拝の歴史						
授業の概要	キリスト教会における礼拝の歴史を概観しながら、礼拝とはどのような行為であるのかを考える。また、聖公会の礼拝暦と「祈禱書」の内容について学ぶ。この科目は、「礼拝」について自覚的・批判的に考察することを目的とするものであるから、キリスト教会の礼拝に関する経験が前提となっている。						
到達目標	キリスト教会における礼拝に参加する者に必要な基礎知識を身につけるとともに、神に祈る心を養う。						
授業計画	1) -4)と15)の担当者は勝村。 1) オリエンテーション。礼拝とはどのような行為か。 2) 古代イスラエルにおける礼拝 3) ユダヤ教の祭礼と礼拝 4) 新約聖書から知られる初代教会の礼拝 5) -7)の担当者は宮本（憲）。 5) 礼拝とはどのような行為か。 6) キリスト教会における礼拝の歴史（1） 7) キリスト教会における礼拝の歴史（2） 8) -14)の担当者は藤井。 8) 礼拝とはどのような行為か。 9) 教会暦について。 10) 朝夕の礼拝について 11) 聖餐式（ミサ）について（1） 12) 聖餐式（ミサ）について（2） 13) 聖餐式（ミサ）について（3） 14) 聖餐式（ミサ）について（4） 15) まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	学期中に最低2回は、キリスト教会の聖日礼拝に参列すること（教派は問わない）。「祈禱書」「聖歌集」の関連項目を見ておくこと。						
授業方法	基本的に講義形式であるが、適宜演習形式を加える。						
評価基準と評価方法	3名の担当者によって課されるレポートによる。以下に目安を示す。勝村担当分25パーセント。宮本担当分25パーセント。藤井担当分50パーセント。						
教科書							
参考書	「日本聖公会 祈禱書」（1990年）、「日本聖公会 聖歌集」（2006年）						